

神戸大学校友会ニュースレター

いつも校友会の活動にご支援ご協力いただきありがとうございます。

— インフォメーション —

【1】トピックス

- (1) 阪神・淡路大震災から 29 年 亡き学生らをしのび慰霊献花式
— 六甲台、深江キャンパスで —
- (2) 大学都市神戸産官学プラットフォームを設立

【2】お知らせ

- (1) 神戸大学×関西電力「カーボンニュートラルとエネルギー」セミナーを開催
- (2) 2024 年 4 月から「対話型ビジネス価値共創人材養成プログラム」(BVCC プログラム/修士対象) スタート
- (3) 神戸大学-株式会社名産神戸肉旭屋 産学連携による『神大はりまる ビーフコロケ』を発売
- (4) 神戸大学 - 有限会社ウチノ 産学連携による「『はりまる』を使用した新たなお惣菜」を共同開発
- (5) 第 2 回神戸大学ビジネスプランコンテストを開催
- (6) 留学生と英語漫才に挑戦し異文化理解を深めました
- (7) 「第 4 回震災復興・災害科学シンポジウム」を開催
 - 神戸大、東北大の研究者が幅広い分野で発表 —
- (8) FairMed が MedTech Angels Season3 に採択される
 - 医療機器分野のスタートアップに大きな機会 —

【3】研究ニュース

- (1) 超音波の力で骨格筋の抗炎症成分産生を活性化
新たな免疫制御法の可能性を示す
- (2) 構造色インクで世界最軽量クラスの塗装を実現
ナノ粒子わずか 1 層分でカラフルな構造色
- (3) さまざまな形やサイズの細胞骨格を人工生体膜上で作る
生体分子アクチンのネットワークを人工的に組み上げる新技術

(4) 良い母親とは？ 日米の自閉症児の育児における文化的な違い

【4】受賞・受章

(1) 工学研究科南本 大穂講師が The APA Prize for Young Scientist 2023 を受賞

(2) 理学研究科小手川 恒准教授らが日本物理学会第 29 回論文賞を受賞

【5】フィーチャー

(1) 運動することだけでなく、“分泌臓器”としての筋肉に着目

(2) 能登半島地震 地下で何が起きたのか？

(3) 貧富の格差生む都市を「排除される側」から問う

【6】インタビュー

(1) 小説を書くために、理系で学んだ

ミステリー作家 福田和代さん

(2) コロナ禍を越え、学園祭の復活けん引

六甲祭実行委員会 委員長 岸佑一朗さん（工学部3年）

(3) 親とは何かを問い直す

中 真生（NAKA Mao）

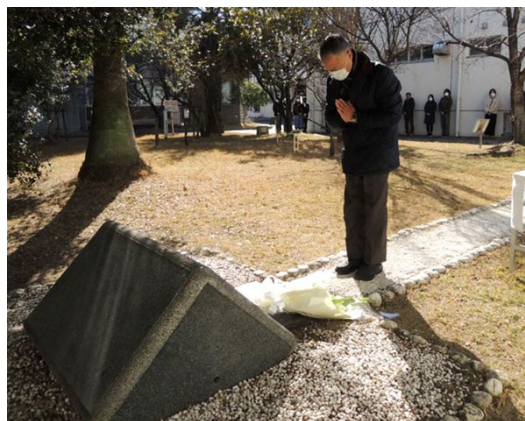
【7】イベント等情報

(1) イベント情報

【1】トピックス

(1) 阪神・淡路大震災から 29 年 亡き学生らをしのび慰霊献花式 一六甲台、深江キャンパスでー

阪神・淡路大震災から 29 年となった 2024 年 1 月 17 日、神戸大学は、震災で亡くなった学生や職員を追悼する慰霊献花式を六甲台第 1 キャンパス（神戸市灘区六甲台町）、深江キャンパス（同市東灘区深江南町）で行いました。遺族や教職員、在学生らが参列し、犠牲者の名前が刻まれた慰霊碑に手を合わせました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_01_17_01.html)

(2) 大学都市神戸産官学プラットフォームを設立

神戸大学など神戸市内の大学と企業、神戸市による連携組織「一般社団法人大学都市神戸産官学プラットフォーム」の設立総会と記者会見が 1 月 29 日、神戸・三宮に新設された交流拠点「KOBE Co CREATION CENTER」で開かれました。会見には、代表理事に選ばれた高士 薫・神戸新聞社相談役や藤澤 正人・神戸大学長ら副代表理事 4 人に加え、久元 喜造神戸市長が出席し、設立の意義や今後の取り組みについて説明しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_01_30_02.html)

【2】お知らせ

- (1) 神戸大学×関西電力「カーボンニュートラルとエネルギー」セミナーを開催
1月19日（金）、眺望館Vルームで関西電力との共催によるセミナーを開催しました。

第一部では、金田 武司先生（ユニバーサルエネルギー研究所・代表取締役社長）から「カーボンニュートラル（CN）の光と陰」についてレクチャーをいただきました。

技術やエネルギー消費量といった観点だけではなく、経済や歴史、また外交や安全保障に至るまで、幅広い観点から実際に起きている出来事を捉え、自ら考えることの重要性が多く参加者に共有されました。

第二部は学生グループワークを行い、レクチャーを受けてそれぞれの気づきや課題、2050年CN達成に向けたアイデアを出し合いました。

学部・研究科も学年も多様なメンバーでのディスカッションでしたが、バックグラウンドが異なるからこそその気づきも多かったようで、予定時間の終了後も尽きることなく、さまざまな意見交換が行われました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_01_19_02.html)

- (2) 2024年4月から「対話型ビジネス価値共創人材養成プログラム」(BVCCプログラム/修士対象) スタート

文部科学省人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業における審査の結果、代表校神戸大学、連携校小樽商科大学と和歌山大学にて申請した「地域/社会課題を解決する対話型ビジネス価値共創人材養成のための価値創発から社会実装までの一貫教育プログラム」が採択され、同プログラムを2024年4月より開始します。

本プログラムは、様々な利害関係者との創造的な対話を通じて、地域や社会における課題の解決に貢献できる対話型ビジネス価値共創人材の養成を目的とするプログラムであり、人社系大学院におけるキャリアパスの開拓が課題となっている中、養成する人材像が明確であること、また、企業や自治体との緊密な連携のもと、創造的かつ実践的な教育を提供する取組となっていること、カリキュラムや開設する科目など具体的なプログラム内容がよく練られ、実施体制や評価体制が整えられていることを、高く評価されました。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_01_24_01.html)

(3) 神戸大学-株式会社名産神戸肉旭屋 産学連携による『神大はりまる ビーフコロッケ』を発売

神戸大学と株式会社名産神戸肉旭屋は、共同で商品開発した『神大はりまる ビーフコロッケ』を発売しました。

この『神大はりまる ビーフコロッケ』は、神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センターで研究開発したじゃがいもの新品種『はりまる』と、同センターで肥育された神戸大学産神戸ビーフを使用しております。

名産神戸肉旭屋の持つじゃがいも専用追熟庫でじっくり寝かせた熟成法で、はりまるの持つ甘味と旨味を引き出し、ホクホク感のあるコロッケに仕上がりました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_01_25_02.html)

(4) 神戸大学 - 有限会社ウチノ 産学連携による『はりまる』を使用した新たなお惣菜」を共同開発

神戸大学と有限会社ウチノは、神戸大学の研究成果であるじゃがいもの新品種『はりまる』を使用した新たなお惣菜を共同開発しました。

『はりまる』は、神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センターで研究開発されたジャガイモの新品種で、しっかりとした食感と風味を持ち、煮崩れしにくい特長をもっています。

神戸大学海洋政策科学部リスクマネジメント研究室に所属する学生が新商品のアイデアを考案し、内野家の伝統製法による試作・改良を重ね、3つの商品（アヒージョ、肉吸い、カレー）を開発しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_01_25_01.html)

(5) 第2回神戸大学ビジネスプランコンテストを開催

神戸大学は、1月27日に神戸大学百年記念館六甲ホールで「第2回神戸大学ビジネスプランコンテスト」を開催しました。このコンテストは、大学生および大学院生による独創的なビジネスアイデアを事業計画に具体化し、その実現と起業を目指すものです。

当日のプログラムは、河端 俊典教授（神戸大学理事 副学長、産官学連携本部長）による開会あいさつに始まり、続いて審査員の紹介、審査基準の発表が行われ、ファイナリスト8チームがそれぞれプレゼンテーションを披露しました。審査では、スタートアップの課題解決能力、顧客ニーズへの理

解、市場性、アントレプレナーシップ、そしてプレゼンテーションの質を重視されました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/entre/news/2024/0129.html>)

(6) 留学生と英語漫才に挑戦し異文化理解を深めました

「漫才を通じた異文化交流」をテーマに、神戸大学の留学生と神戸大学国際人間科学部の学部生 10 名がこのほど、吉本興業のお笑い芸人 Koさんをオンラインで講師に招き、漫才パフォーマンスに挑戦しました。これは国際人間科学部が実施している国際共修「神戸大学グローバル・キャンパス・プログラム」の取り組みの一環で、漫才という日本文化を留学生に知ってもらう機会となったほか、留学生との異文化コミュニケーションの実践の場となりました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_01_30_01.html)

(7) 「第4回震災復興・災害科学シンポジウム」を開催

ー 神戸大、東北大の研究者が幅広い分野で発表 ー

神戸大学都市安全研究センター（RCUSS）は1月20日、「第4回震災復興・災害科学シンポジウム」をオンライン形式で開催しました。本学が災害科学分野の包括協定を結んでいる東北大学との連携のもと、両大学から7人の研究者が講演・研究発表を行いました。

東日本大震災10年となった2021年から毎年開いており、今回は研究者や学生、市民ら90人が参加しました。最初に、東北大学加齢医学研究所/災害科学国際研究所の杉浦 元亮教授が「災害への適応的心理・行動特性：災害を生きる力の8因子」と題して特別講演。東日本大震災の被災者を対象とした調査で、災害への適応に資する心理・行動特性「災害を生きる力」の因子を抽出した研究について発表しました。主要8因子として「リーダーシップ、問題解決、愛他性、頑固さ、エチケット、感情制御、自己超越、能動的健康」を挙げ、今後の災害対応や防災教育に活用できる可能性を示しました。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_02_01_01.html)

(8) FairMed が MedTech Angels Season3 に採択される

ー 医療機器分野のスタートアップに大きな機会 ー

医療機器分野のスタートアップの起業を目指す神戸大学起業部 FairMed は、MedTech Angels Season3 のアクセラレーションプログラムに採択されました。

FairMed は、先進的な医療機器の開発に焦点を当てており、その革新的なアイデアと技術が MedTech Angels Season3 の選考委員の注目を集めました。このアクセラレーションプログラムへの参加により、FairMed は業界の専門家や投資家との貴重な機会を持ち、様々なサポートを受けながら、製品の開発と市場への展開を加速させる機会を得ることができます。

○詳細は、こちらをご覧ください。

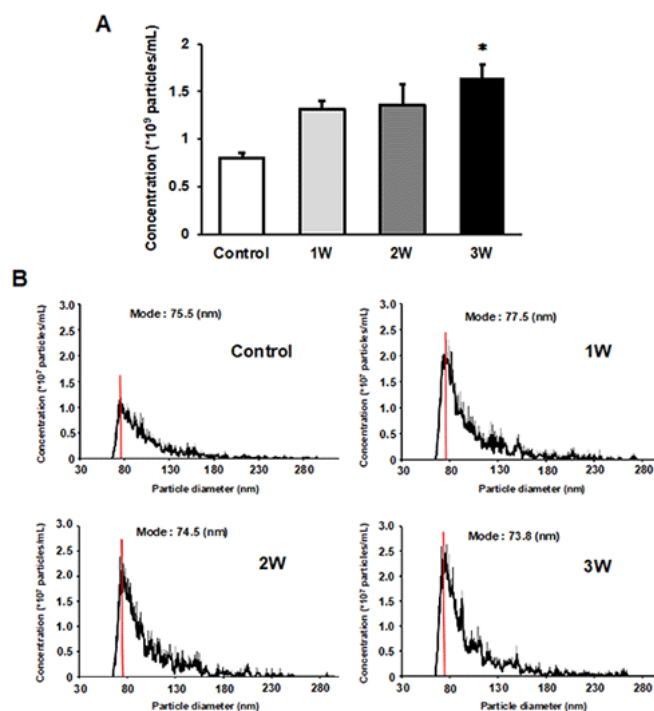
(<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/entre/news/2024/0202.html>)

【3】研究ニュース

(1) 超音波の力で骨格筋の抗炎症成分産生を活性化

新たな免疫制御法の可能性を示す

神戸大学大学院保健学研究科の前重 伯壮准教授、博士後期課程大学院生の山口 亜斗夢氏らの研究グループは、米国ハーバード大学、中国上海科学技術大学・南京医科大学との国際共同研究により、人体最大の分泌器官である骨格筋に超音波を照射することで抗炎症作用を有する細胞外小胞と呼ばれる粒子の分泌が増加し、免疫細胞の病的な炎症反応を抑制できることを発見しました。さらに、筋細胞由来細胞外小胞には筋特有の抗炎症性遺伝子成分が含まれていることを発見し、通常は運動を行うための器官と認識される骨格筋を体の有害な炎症を抑える分泌器官として活用する可能性が示されました。今後、骨格筋を人体最大の分泌器官として捉えて物理療法によりその分泌能を活性化する、新たな免疫管理法の開発が期待されます。



○詳細は、こちらをご覧ください。

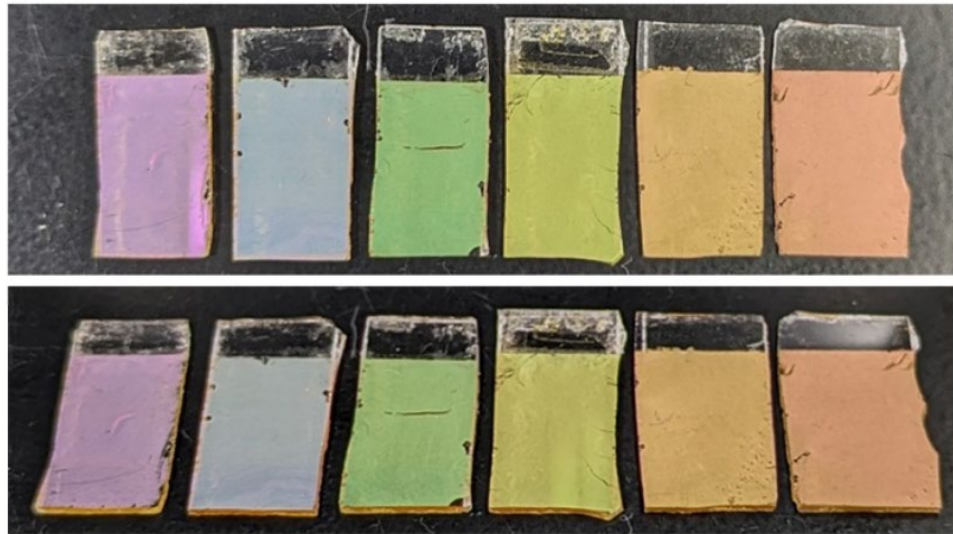
(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240124-21761/>)

(2) 構造色インクで世界最軽量クラスの塗装を実現

ナノ粒子わずか1層分でカラフルな構造色

神戸大学大学院工学研究科の田中 悠暉大学院生、杉本 泰准教授、藤井 稔教授らの研究グループは、独自に開発した「構造色インク」を用いることにより、世界最軽量クラスの構造色塗装が可能であることを実証しました。近

年、退色しない「構造色」が注目されていますが、見る角度によって色が変わる、配列など周期構造が必要である、などの理由により従来の塗料に置き換えることが困難でした。本研究では、Mie 共鳴という現象で発色するナノメートルサイズの粒子をインク化し、わずか1層分だけ基材に塗ることで、角度依存性の小さいカラフルな着色が可能であることを実証しました。この成果は、従来の塗料よりはるかに少ない量で着色塗装が可能であることを示しており、例えば、数100キログラムといわれる大型航空機の塗装を、1/10以下に軽量化できる可能性があります。



シリコンナノ粒子を一層だけ塗装した基板の写真(上)、斜めから観察した場合の写真(下)

○詳細は、こちらをご覧ください。

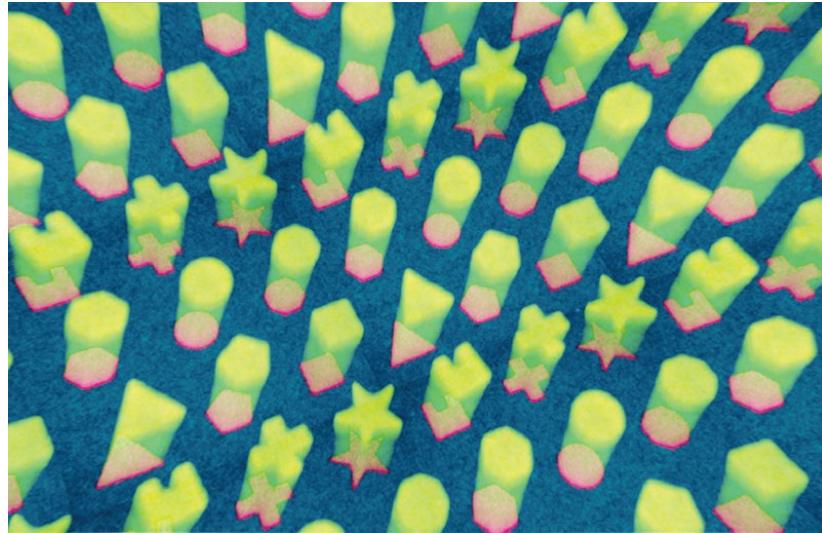
(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240131-21760/>)

(3) さまざまな形やサイズの細胞骨格を人工生体膜上で作る

生体分子アクチンのネットワークを人工的に組み上げる新技術

理化学研究所生命機能科学研究センター構成的細胞生物学研究チームの山崎 陽祐リサーチアソシエイト、宮崎 牧人チームリーダー、神戸大学大学院農学研究科修士課程2年の宮田 優里大学院生、同バイオシグナル総合研究センターの森 垣憲一教授(同大学院農学研究科教授)らの共同研究グループは、生体分子アクチンによる自発的な細胞骨格形成を空間的に制御できる技術を開発しました。

本研究成果は、アクチンが担う細胞の運動や変形など基本的な生命機能の理解だけではなく、がん細胞の浸潤や転移など、アクチンが関わるさまざまな病気の原因の解明や治療法の開発への貢献が期待されます。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240131-21784/>)

(4) 良い母親とは？ 日米の自閉症児の育児における文化的な違い

北陸学院大学教育学部幼児教育学科のポーター 倫子教授および神戸大学大学院人間発達環境学研究科の山根 隆宏准教授は、テキサス大学健康科学センターヒューストン校との国際共同研究において、日米の自閉スペクトラム症 (ASD) 児をもつ母親を対象に「良い母親像」の調査を行いました。インタビュー調査の結果、日米ともに子どもを導くことが最も重要であると考えられる共通特性が示されました。しかし、文化による違いも明らかになり、米国の場合、子どものアドボカシー者としての役割を果たし、子どもが療育やサービスを受けられるようにし、ASD について学び知識を得ることが重要視されました。一方、日本の母親の場合、子どもを受け入れよく知ろうとすること、子どもに合わせ、その視点を重視すること等、子ども中心の視点から適切なサポートを提供することが特徴として現れました。これは ASD 児の母親像における世界初の国際比較の研究成果です。今後、文化を視点にいたした ASD 児の親への支援方法について、新たな洞察を提供すると考えられます。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240206-21786/>)

【4】受賞・受章

(1) 工学研究科南本 大穂講師が The APA Prize for Young Scientist 2023 を受賞

神戸大学大学院工学研究科南本 大穂講師が The APA Prize for Young Scientist 2023 を受賞しました。

受賞者：南本 大穂講師

受賞日：2023 年 11 月 28 日

受賞名：The APA Prize for Young Scientist 2023

業績名：Investigations of Electrified Interfaces under Plasmon
Excitations through Electrochemical Spectroscopic
Measurements

電気化学分光手法に基づく局在表面プラズモン励起下にある
局所界面観測に関する業績

○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/award/2024_01_31_01.html)

(2) 理学研究科小手川 恒准教授らが日本物理学会第 29 回論文賞を受賞

神戸大学大学院理学研究科小手川 恒准教授らが日本物理学会第 29 回論文賞を受賞しました。

受賞者：小手川 恒准教授、藤 秀樹教授、菅原 仁教授

受賞日：2024 年 1 月 20 日

受賞名：日本物理学会第 29 回論文賞

業績名：Superconductivity of 2.2 K under Pressure in Helimagnet
CrAs

○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/award/2024_02_02_01.html)

【5】フィーチャー

(1) 運動することだけでなく、“分泌臓器”としての筋肉に着目

筋肉が分泌するエクソソームからわかること

私たちの体は、骨格に沿ってついている筋肉（骨格筋）を収縮させることで動くようになっています。例えば腕を上げるときには、肩全体を覆う三角筋、首から背中の中の広い範囲をカバーする僧帽筋などが動いて腕が持ち上がる。姿勢を保っていられるのも全身の骨格筋があるからです。このように体

を動かすために使われる骨格筋が、さまざまな生理活動を調節する物質を出す“分泌臓器”でもあることはあまり知られていません。神戸大学大学院保健学研究科の前重 伯壮准教授は、骨格筋が分泌する物質から健康状態を知る手法や骨格筋を刺激する方法を開発。全身の健康維持に役立てることを念頭に、骨格筋を研究しています。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240123-21746/>)

(2) 能登半島地震 地下で何が起きたのか？

1月1日に発生した能登半島地震は、地震大国・日本の課題をあらためて示しました。1995年の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）を超えるマグニチュード(M)7.6を記録し、地形を変えるほどの大規模な地盤の隆起も起きました。余震の多さも際立っています。能登半島の地下では何が起きたのか。都市安全研究センターの吉岡 祥一教授（地震発生メカニズム）に、今回の地震の特徴や今後の対策について聞きました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240131-21785/>)

(3) 貧富の格差生む都市を「排除される側」から問う

公園をめぐる「ジェントリフィケーション」

2021年の東京オリンピック、2023年のG7広島サミット、そして2025年に迫る大阪・関西万博。国際的なメガイベントをきっかけに都市は生まれ変わります。駅前や公園や道路が再整備され、ホテルやショッピングビルができ、街を見下ろすタワーマンションが建つ。整然とした空間は消費を喚起し、にぎわいを生みます。

だが、そこには何かが見落とされているのではないか。排除され、隠されているものがあるはずだ。神戸大学大学院人文学研究科の原口 剛准教授は問います。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240206-21742/>)

【6】インタビュー

(1) 小説を書くために、理系で学んだ

ミステリー作家 福田和代さん

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20231215-15260/>)

(2) コロナ禍を越え、学園祭の復活けん引

六甲祭実行委員会 委員長 岸佑一朗さん (工学部3年)

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240110-21759/>)

(3) 親とは何かを問い直す

中 真生 (NAKA Mao)

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240115-21756/>)

【7】 イベント等情報

(1) イベント情報

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/event/index.html>)

★「KU-Net」からのお知らせ

「神戸大学コミュニティネットワーク(KU-Net)」をリニューアルし公開しております。

従来からの、「OB・OG 訪問」の機能に加え、「卒業生からのメッセージ」や「在学生の今」の掲載をしております。また、卒業生等が開催するイベントへの参加申し込み機能も追加しました。

詳しくは、神戸大学コミュニティネットワークホームページ
(<https://www.office.kobe-u.ac.jp/alumni-ku-net/>)でお知らせしています。

また、KU-Net の説明動画を YouTube にアップしておりますので併せてご覧ください。
(<https://youtu.be/ZqHCVW0VsuU>)

是非ご登録ください。

★神戸大学校友会ホームページ

<https://www.org.kobe-u.ac.jp/ku-alumni/>

■支部所属の会員の皆様にもお知らせください

神戸大学校友会事務局

657-8501 神戸市灘区六甲台町 1 - 1

神戸大学企画部卒業生・基金課内

TEL 078-803-5042 FAX 078-803-5024

E-mail: plan-ku-alumni@office.kobe-u.ac.jp